

Book review

沢内村奮戦記

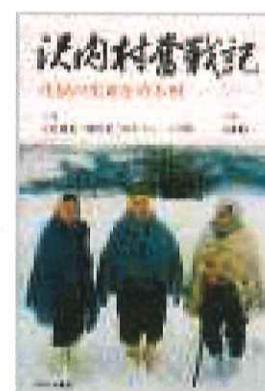
社会教育学科長 星山幸男

地域福祉や地域医療に関心のある人なら、一度は「沢内村」の名を耳にしたことがあるだろう。わが国で最初に老人医療費の無料化を実現し、乳幼児死亡率を全国ワースト1からゼロにまで改善したことで全国にその名を知られ、村ぐるみで生命尊重行政を実施してきたことは今も注目されています。最近「いのちの山河」というタイトルで映画化され、この種の映画としては異例のロングランで上映されています。

しかし、村の名前は知っていても、そこでいったいどんな取り組みが行われてきたのか、何がすばらしいのか、若い人たちには意外に知られていません。私は、沢内村の取り組みこそ地域福祉・地域医療の原点であり、また地域づくりを目指す社会教育活動の王道を行く実践でもあると考えています。豪雪、貧困、多病・多死の三重苦を克服しようと、故深澤辰雄元村長はさまざまな困難を乗り越え、国が行えなかった健康福祉政策を実現してきました。「小さい自治体だからできない」ではなく「小さいからできるものがある」こと、やり方しだいで住民の目線に立った行政は可能であることを示して

くれているのです。トップダウンで職員や住民を動員するような健康づくりを進めるのではなく、住民一人一人に問題を投げかけ、みんなで学習を進め、自ら意識を改革していくという過程の中に、沢内村の秘密があります。村中を歩いて住民と正面から向き合う姿勢こそ、福祉に、そして社会教育に携わる者の基本です。

この本はやや古いけれど、当時深澤村長と一緒に地域で活動し、問題を一つ一つ克服していった方たちが執筆しています。その語りの一つ一つ事実の一つ一つに、今、私たちが深く考え、大切にしていかなければならぬ視点が数多く提示されています。一見遠回りに見える沢内村のやり方ですが、住民主体の村ぐるみによる地域づくり、福祉・医療の体制づくりとはいってどんなものなのか、ひたひたと伝わってきます。この本に登場する状況は、決して貧しかった日本の農山村の昔語りではありません。地域福祉、地域医療の重要性が叫ばれる一方で、福祉行政の後退が誰の眼にも明らかな現代において、もう一度沢内村の奮闘の様子をしっかり学び、その意義を考えてみることは、とても大切なことだと思います。



太田祖電[ほか]共著
「沢内村奮戦記」より
あけび書房刊 1983

所在：498.021/オオ
学生閲覧図書

～中学生職場体験レポート～

今年も仙台市立五橋中学校（10/20～22）と仙台市立五吉成中学校（10/25～29）の計8名が大学図書館の仕事を体験しました。

今回の体験では、レファレンスや目録など今まで知らなかった大切な仕事を知ることができ、とても勉強になりました。体験させていただいた仕事はどれも大変なものばかりでしたが、良い経験になりました。



3日間だけという短い職場体験だったけれど、図書館の仕事には沢山の種類があることが分かりました。本や雑誌の受入・選定など、ただ本を整理して並べたりカウンターで受け答えしているだけではないことが分かりました。図書館についてよく知れた体験だったと思います。



一日目の緊張がすごく心に残っていますが、図書館を案内してもらい、小さな本や昔の本、貴重な品々を見せていただきすごいと思いました。二日目も絵本の紹介文を考えたことなどすごく楽しくて、帰る時には緊張が解けていました。二日間学んだ事は将来の為になると思いました。

利用する方が困ったりせず、利用しやすい図書館にするために各作業で心配りをしている所に気付く事ができました。普段は入る事の出来ない書庫や貴重書庫なども見学させて頂き、本の数や状態の良さに驚きました。

今回の職場体験を通して、利用者が利用しやすいうように職員の方々が色々な仕事をしていることが分かりました。また、私達が普段見ることができない裏方の仕事についても詳しく知ることができ、勉強になりました。



私は今回の職場体験で、利用する立場から利用される立場になって普段見られない裏方の作業でしたが、見えない所で大変な作業をたくさんしているんだと思いました。良い体験になって良かったです。

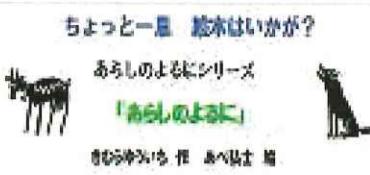


この職場体験で初めて図書館の裏側を知りました。普段は入れない所に入れてもらったり、本を借りる側ではなく貸す側になって本の貸出を行ったりと貴重な体験をさせていただきました。専門的な活動は非常に楽しくあつという間に3日間が過ぎました。

職場体験では、ずっと知りたかった図書館の裏側を見る事ができました。その他にも難しいことをとても分かりやすく教えていただいて、とても嬉しかったです。3日間は本当に短くて、もっとここで学びたいと感じました。ありがとうございました。

図書館日記♪

～中学生による絵本紹介～



ここ数年、毎年受入れている中学生の職場体験。今年も10月に行われ、五橋中学校と吉成中学校から8名が訪れました。図書館の仕事の一環として、両校ともに絵本紹介のPOP作成を体験してもらいました。紹介する絵本やテーマを決定するのが難しかったようですが、現代っ子らしく、OPACを上手く活用しパソコンをフル活用した、デザインに凝った作品になっています。



作業を進めるうち、行き詰まつたり悩んだりしていた8名ですが、友達と相談しながら次第に形にしていく様子は、とても楽しんでいるようでした。



2Fのパソコンコーナーで作業している姿や、絵本コーナーで一生懸命絵本を選んでいる中学生の姿を目撃した方もいるのではないでしょうか?

中学生の目線から見たおススメ絵本。
是非取ってみてください。

新しくなった絵本コーナーに、中学生の力作を順次展示していきます。
どうぞお楽しみに!



(閲覧担当: 熊谷 幸)



図書のプロムナード

皆さんは、これまでにこんな問い合わせ自分自身に投げかけたことはないでしょうか?

「自分は何者で、どこから来ていったいどこへ行くのだろうか?」

今回ご紹介するのは、そんな思いを胸の内に抱く女の子が主人公の『雪のひとひら』という物語です。

女の子の名前は雪のひとひら。そう、その名のとおり彼女は一片の雪なのです。

寒い冬の日に空の高みで生まれた雪のひとひらは、数多の兄弟姉妹たちと大地に舞い降ります。そして自分という秘密を含め、この世界の不思議を知りたいという思いで冒険の旅に出かけます。旅をとおして、彼女は様々な経験をしながら成長していきます。自然の美しさと厳しさ、楽しさと苦難、そして仲間やかけがえのない相手との出会いと永遠の別れ。迷ったり、悩んだり時には不本意な選択を強いられながらも、自分の道を進みます。そして、その度に雪のひとひらは自分の存在意義を問いただすのです。

果たして、物語の最後にその答えは見つかるのでしょうか?

地上の一粒にすぎない雪のひとひらの物語は、この地上に生きる一人の人間の生涯として読むことが出来ると思います。繊細で美しい言葉の数々は、読む者のこころの深いところに何かをそっと語りかけているかのように印象的に響きます。それはもしかしたら、投げかけた問い合わせを解く手掛かりなのかもしれません。

(図書担当: 斎藤 由里香)



ポールギャリコ著: 矢川澄子訳
「雪のひとひら」
新潮社 2001.12

所在: 933.7 / キヤ
学生閲覧図書
書庫

図書館利用シリーズ 10

図書館内でのコピーをするとき、どんな手続きや注意点があるの!?

図書館にある本や雑誌をコピーする際、「著作権法」のルールがあることを皆さんご存知ですか? 館内でのコピーのルールはどのようなものがあるのか、以下の項目をみていきましょう。



館内でのコピーのルール

- ☆ 部数は、1人につき1部です。
- ☆ コピーできるのは、著作物の一部分です。
(図書は、半分以下のコピーになります。)
(雑誌の最新号はコピーできません。)
- ☆ 目的は調査研究のために限ります。
- ☆ コピーは、図書館にある資料に限ります。

館内でのコピーのルールが守られているかどうか、図書館員が判断するため、皆さんには「館内複写申込書」を記入し提出してもらっています。申込用紙は違えども、これは全国どの図書館でも同じ手続きがあるんですよ。

複写申込書の存在を知らない方や記入が面倒だと思っていた方がいるかもしれません、作品を作った人の権利を守るために、ルールを守ってコピーをしてくださいね!!

- ※ コピーのことを図書館では「複写(フクシャ)」ともいいます。
- ※ 「館内複写申込書」はカウンター及びコピー機の横に置いてあります。

(閲覧担当: 五十嵐 智子、雑誌担当: 菅原 裕生)

図書館からのお知らせ

☆ 冬季休業中の長期貸出

期間: 平成22年12月13日(月)～

返却日: 平成23年1月6日(木)

対象資料: 図書

*ベストセラーも含む、貸出冊数は通常と同じ。

*最新情報は、本学図書館HPで確認を!!

☆ 冬期休館について

平成22年12月27日(月)～平成22年1月5日(火)

※ その他、開館時間や休館日については、図書館ホームページや掲示板をチェックしてください。

☆ 展示の紹介

消備コーナーの書架の上に本学教職員の著書及び寄贈書、卒業生の寄贈書を展示しています。貸出も可能ですので、ぜひ手に取ってみてください。

☆ 館内の書架移動について

絵本コーナー・・・3F フロア
学術雑誌コーナー・・・2F フロア

☆ その他

2F フロアが少し広くなりました。それに伴い2F カウンター、PCコーナー、AVコーナーが変わりました。今年から来年にかけて図書館では大規模な工事が行われます。皆さんにはご不便をおかけしますが、どうぞ宜しくお願いいたします。今後も館内移動がありますので、掲示やHP等で確認してくださいね!!

一編集後記

としかんぽうNo.12も無事に発行することができました。毎度アイディアを出しながら楽しく読んでもらえるよう、思考錯誤中です。今後もよろしくお願いします。
《稻妻・五十嵐・菅原》

東北福祉大学図書館報 「としかんぽう」 No. 12 2010年12月

編集・発行 東北福祉大学図書館 〒981-8522 仙台市青葉区国見1-8-1

TEL: 022-717-3319 FAX: 022-717-3309

E-mail: lib@tfu-mail.tfu.ac.jp

<http://www.tfu.ac.jp/libr/tful.html>